

2022年12月20日  
阪神高速道路株式会社

## 第18期(2023年3月期)中間決算の概要

### 1. 連結決算の概要

(単位:億円、単位未満切捨て)

項目	2023年 3月期 中間期(A)	2022年 3月期 中間期(B)	増減		2023年 3月期 通期見通し	2022年 3月期 通期実績
			金額 (A-B)	率 (A-B)/(B)		
<b>営業収益</b>						
高速道路事業	1,064	1,043	21	2.0%	3,732	2,030
料金収入	885	832	53	6.4%	1,772	1,703
道路資産完成高 <sup>(注)1</sup>	176	208	▲ 31	▲ 15.3%	1,956	320
その他売上	2	2	▲ 0	▲ 2.1%	3	6
関連事業	45	61	▲ 16	▲ 26.8%	198	152
受託事業	20	38	▲ 17	▲ 46.2%	141	94
その他の事業 <sup>(注)2</sup>	24	23	1	4.6%	57	58
セグメント間取引消去	▲ 1	▲ 1	0	-	-	▲ 3
	1,108	1,104	4	0.4%	3,930	2,179
<b>営業費用</b>						
高速道路事業	1,049	1,026	23	2.3%	3,738	2,005
道路資産賃借料	657	602	55	9.2%	1,315	1,242
道路資産完成原価 <sup>(注)1</sup>	177	208	▲ 31	▲ 15.3%	1,956	320
管理費用	215	214	0	0.1%	466	442
関連事業	41	58	▲ 16	▲ 28.2%	190	142
受託事業	20	38	▲ 17	▲ 45.6%	141	94
その他の事業 <sup>(注)2</sup>	20	19	1	5.3%	49	47
セグメント間取引消去	▲ 1	▲ 1	0	-	-	▲ 3
	1,090	1,083	7	0.6%	3,929	2,144
<b>営業利益</b>						
高速道路事業	15	17	▲ 2	▲ 14.0%	▲ 6	24
関連事業	3	3	▲ 0	▲ 3.6%	7	9
	18	21	▲ 2	▲ 12.3%	1	34
経常利益	19	22	▲ 3	▲ 13.5%	2	36
親会社株主に帰属する 中間(当期)純利益	16	17	▲ 1	▲ 7.7%	▲ 1	26

(注) 1 道路資産完成高とは、完成した道路資産の高速道路機構への引渡額をいい、道路資産完成原価とは、当該道路資産の建設に要した費用をいいます。

2 関連事業の「その他の事業」には、休憩所等事業、駐車場事業、道路マネジメント事業等を含んでおります。

3 2023年3月期の通期見通しには、不確定な要因を含んでおり、将来の業績等を保証するものではありません。実際の業績等については、様々な要因により変化することをご承知おき下さい。

## 2. 事業の状況

### (1) 概要

- 高速道路事業においては、新型コロナウイルス感染症による影響が弱まったことから、料金収入は前年同期と比較し増加し、管理費の**上期特性**※による影響もあり、中間決算では利益が発生しました。  
※ 補修工事等の完成が下期に多いことから、**管理費については、下期が上期よりも大きくなる傾向**にあります。
- なお、会社全体の通期見通しについては、新型コロナウイルス感染症の影響等により、当期純損失は約1億円となる見込みです。
- 阪神高速グループでは、新型コロナウイルス感染症への対応として、料金所やパーキングエリアにおける感染防止対策をはじめとして、当社グループ全体の感染拡大防止策の徹底を図るとともに、在宅勤務等の事業継続を可能とする体制を敷いてまいりました。今後とも、関西都市圏の重要な社会基盤として阪神高速道路が担う役割を果たすべく努めてまいります。

### (2) 高速道路事業

#### 【2023年3月期中間期の業績】

- 阪神高速道路の一日当たり平均通行台数は、新型コロナウイルス感染症による影響が弱まったことから、前年同期と比較し増加し、70.3万台(前年同期比5.9%増)となりました。  
また、料金収入は885億円(前年同期比53億円増)となりました。
- 独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構に対する道路資産賃借料は、657億円(前年同期比55億円増)となりました。
- 管理費の上期特性による影響が大きく、高速道路事業の営業利益は15億円(前年同期比2億円減)となりました。

#### (主なトピックス)

- ミッシングリンクの解消に向け、淀川左岸線(海老江JCT～豊崎)、淀川左岸線延伸部及び大阪湾岸道路西伸部(六甲アイランド北～駒栄)の整備促進に努めました。
- お客さまに最高の安全と安心を提供するため、喜連瓜破付近の橋梁の架替え工事を開始するなど、構造物の長寿命化に向けた大規模更新・修繕事業を進めてまいりました。
- 「お客さま満足アッププラン2022」の取組みでは、リニューアル工事による舗装等の大規模な補修のほか、泉大津大型専用PAを新しくオープンするなど、お客さまの安全・安心の向上に継続的に努めてまいりました。

#### 【2023年3月期通期の見通し】

- 今後も新型コロナウイルス感染症の影響による交通量の減少が継続すると見込んでおり、料金収入は、1,772億円(前年同期比68億円増)となる見込みです。
- 道路資産賃借料は、1,315億円(前年同期比72億円増)となる見込みです。
- 管理費用は、466億円(前年同期比24億円増)となる見込みです。
- この結果、高速道路事業の営業損失は6億円(前年同期は営業利益24億円)となる見込みです。

### (3) 関連事業

#### 【2023年3月期中間期の業績】

- 受託事業は、淀川左岸線の工事受託等により、営業収益は20億円(前年同期比17億円減)、営業費用は20億円(同17億円減)となり、営業損失は31百万円(前年同期は営業損失15百万円)となりました。
- その他の事業は、休憩所等事業、駐車場事業、道路マネジメント事業等を展開したことにより、営業収益は24億円(前年同期比1億円増)、営業費用は20億円(同1億円増)、営業利益は3億円(同2百万円増)となりました。

#### 【2023年3月期通期の見通し】

- 関連事業の営業収益は198億円(前年同期比45億円増)、営業費用は190億円(同48億円増)、営業利益は7億円(同2億円減)となる見込みです。

**(参考)2023年3月期中間期の個別業績について**

(単位:億円、単位未満切捨て)

項目	2023年 3月期 中間期(A)	2022年 3月期 中間期(B)	増減		2023年 3月期 通期見通し	2022年 3月期 通期実績
			金額 (A-B)	率 (A-B)/(B)		
<b>営業収益</b>						
<b>高速道路事業</b>	1,062	1,041	21	2.0%	3,729	2,023
料金収入	885	832	53	6.4%	1,772	1,703
道路資産完成高	176	208	▲ 31	▲ 15.3%	1,956	320
その他売上	0	0	0	277.4%	0	0
<b>関連事業</b>	25	44	▲ 18	▲ 42.5%	150	109
受託事業	20	38	▲ 17	▲ 46.2%	141	94
その他の事業	4	6	▲ 1	▲ 20.3%	9	15
	1,087	1,085	2	0.2%	3,879	2,133
<b>営業費用</b>						
<b>高速道路事業</b>	1,051	1,026	25	2.5%	3,743	2,014
道路資産賃借料	657	602	55	9.2%	1,315	1,242
道路資産完成原価	177	208	▲ 31	▲ 15.3%	1,956	320
管理費用	217	214	2	1.0%	472	451
<b>関連事業</b>	24	43	▲ 18	▲ 43.0%	148	106
受託事業	20	38	▲ 17	▲ 45.6%	141	94
その他の事業	3	4	▲ 1	▲ 21.8%	7	11
	1,076	1,069	6	0.6%	3,892	2,121
<b>営業利益</b>						
<b>高速道路事業</b>	10	14	▲ 4	▲ 28.7%	▲ 14	9
<b>関連事業</b>	0	1	▲ 0	▲ 28.5%	2	2
	11	16	▲ 4	▲ 28.6%	▲ 12	12
<b>経常利益</b>	16	21	▲ 5	▲ 25.0%	▲ 7	17
<b>中間(当期)純利益</b>	15	19	▲ 3	▲ 16.4%	▲ 7	15

(注) 2023年3月期の通期見通しには、不確定な要因を含んでおり、将来の業績等を保証するものではありません。  
 実際の業績等については、様々な要因により変化するものであることをご承知おき下さい。